

## 恒例の講演会、四者連絡会、そして総会におむけて

今年度最後の行事である「もみじ講演会」を開催しました。講師は、昨年11月の東京2025デフリンピックのボウリング選手でたましろの郷の支援員である小松博臣（ひろおみ）さんと、たましろの郷の相談支援専門員の福泉亜久理（あくり）さんをお招きしました。サークルでは事前にデフリンピックのボウリングのルールについて学び、皆で講演に備えました。

前半、小松さんご自身の生い立ちからデフリンピック出場までの道のりをとても穏やかに丁寧に魅力的な手話でお話下さいました。後半は「たましろの歴史と現在の課題」をたましろの郷建築までの経緯やなかまの動画を映しながら、福泉さんが明るく軽快に進めて下さいました。ただ、現在のたましろの郷の課題は深刻で我々がどのように支援していくべきかを問われているように感じました。これからも引き続きたましろの郷そしてなかまたちを応援していこうと固く思いました。

3月14日（土）に第4回四者連絡会が開かれました。議題に、「四者で取り組みたいこと」として①災害と②福生市手話言語条例をあげ、①災害が起きた時、困ることは？ 連絡手段は？ 避難所の備蓄品は？ などの不安材料を出し合い、福聴協やサークルそれぞれでさらに深く掘り下げて話し合い、次回の連絡会で再度審議していきます。②福生市手話言語条例については、各地域で制定が進んでいる条例を福生市でも作成し制定を目指して取り組みを始めよう。この地域に合った内容で考える必要がある。まずは昨年6月に制定された東京都手話言語条例から学んでいこうということになりました。まだスタート地点に立っただけです。しかし近い将来、福生市手話言語条例が制定できるよう力を合わせて頑張っていきましょう。と共有しました。

さて、4月9日第40回定期総会が予定されています。ただいま役員会で準備を進めています。近日中に総会準備アンケートをお届けできるかと思っておりますので、ご回答のご協力をお願いします。

### 2026年3・4月の予定

- 3月26日（木）活動は休み  
総会アンケートの締め切りは3月29日（日）
- 4月2日（木）総会準備 地下研修室
- 4月9日（木）手話サークルもみじ定期総会  
地下研修室
- 4月16日（木）通常活動 地下研修室
- 4月23日（木）通常活動 地下研修室
- 4月30日（木）活動は休み

お問い合わせ

shuwamomiji30@yahoo.co.jp

### 会員より

「留学生と手話」 岩戸五郎

2月中旬、「麦わら帽子」に青梅市にある多摩リハビリテーション学院専門学校の生徒が体験実習にきた。

ベトナムとミャンマーから来た二人の留学生。一週間であったが、丁度「プチの店」の週で、介護士を目指しながらのクッキー・ケーキ作りであった。

介護の勉強しながら、聴覚障がい者との接触もあるために、簡単な手話での挨拶も習っているとのこと。自分の名前を指文字で表現できた。

クッキー班には、聴覚障がい者と、指文字を覚えている最中という利用者がいる。休憩時間では他のメンバーも含めて手話談議に盛り上がった。

日本語は難しいと言われる。更に難しい介護用語を学びながら手話も学ぶとは。そして後日丁寧な手書きのお礼状が届いた。

## 手話サークルもみじ講演会

### テーマ 東京2025デフリンピックとたましろの郷の歴史

講師 社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会

障害者支援施設たましろの郷 支援部 小松 博臣氏

相談支援専門員 福泉 亜久理氏

#### 参加者の感想

久しぶりに福泉さんと会えて、時間の都合で少し遠ざかっていた「たましろの郷」を身近に感じることができました。そして小松支援員の人柄やボウリングに向かう姿勢、さまざまな葛藤があったにもかかわらず、穏やかに未来を思う気持ちに感動しました。また、たましろの郷が抱える問題を伺って自分達に何ができるのか、と重く受止めました。(K)

小松さんの少年時代のお話には心が痛みました。様々乗り越えてきたからこそその現在のご活躍を聞くことができ、ありがたく思いました。たましろの郷ができるまでの活動を紹介したDVDは初めて観て、その熱意に感動しました。誰もが安心して生活していける社会のために、自分ができることをしていきたいと思いません。(A)

小松さんのお話しと貴重なDVDを視聴しながら福泉さんのお話しを聞かせて頂き本当に有り難うございました。たましろの郷の平均年齢が50歳に迫ってなかまたちを見送らなければならない経験も重ねてこられたとの話しから、以前たましろの郷を見学に行った時廊下の壁に生活を共にし見送って来られたなかまたちの写真が飾られていたのを思い出していました。今回は時間が足りなかったというか懇談、質問の時間も欲しかったと思いました。(M)

小松さんの生い立ちを聞いて、改めて聴覚障害の厳しさを感じました。ボウリングの話では、国際的に活躍されていて驚きとともに感動する反面、知らないことが多くて残念。たましろの郷での仕事ぶりは、福泉さんから「なかまに慕われている」とのこと。なかまはよくわかっていますね。後半、福泉さんからの「たましろの郷の歴史」のお話では、たましろの郷建設の前、地域住民に理解を求める奥多摩「城」地域での取り組みの動画(!)、写真しか見たことがなかったので、涙腺崩壊。懐かしい顔ぶれも元気に映っていて、タイムスリップしたようでした。(R)

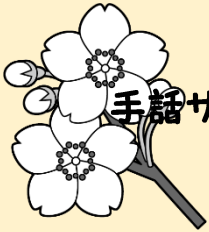


## 新連載 嵐之転倒騒動顛末記 その四

退院した時はギブスや包帯もなく痛々しい傷がおき出しのままだった。傷を見るたびにあの日があんなに寒くなかったら…とか後ろ向きに歩いていなければ…と「たれば」のオンパレード。平成のトレンドドラマで言っていた。「いいことと悪いことは背中併せて同じ数だけある。」と。あ～、まったくその通り。私にとってのいいことの到来は骨折したおかげで仕事も休み、好きなだけ座って手芸三昧。あまりにささやかな幸せ。もともと脳天気なのだ。そんなこんなで12月初め。惨事再び!!義理母(91歳)が転んで大腿骨頸部骨折で入院!そして人工股関節置換手術を受けることになった。どこか遠くから呪いのビームを浴びせられている女たち。そして旦那に松葉杖の私はなぜかお見舞いに連れていかれることになった。病院の入り口から病室までが増築を繰り返す旅館の様に果てしなく続く廊下、結局松葉杖ではたどり着かず、義理母車いす、嫁車いすというありさまになった。幸い義理母は順調に回復し2週間後には何事もなかったように何もかも忘れて退院した。一方私は、すっかり骨がくっついた体で松葉杖を1本の杖にしていい気になっていたが、年が明けて1月の診察で医者から「まったくくっついていませんよ、足をついてましたね」と言い当てられ、ほうほうの体で帰宅。ここから数週間は座っている時は左足を台の上に置き、スーパーでの買い物は車いすのスタイルに変えた。が、ここでまたまた問題が…。

つづく

# 手話サークル福手の会からのお知らせ



手話サークル 福手の会

## お花見さんぽ

ふっさ桜まつりの イベント・模擬店は、

3月28日(土) 29日(日)です🌸

そこで 福手の会で 「お花見さんぽ」を 計画しました。

**日にち** 3月29日(日)

**場所** 多摩川中央公園

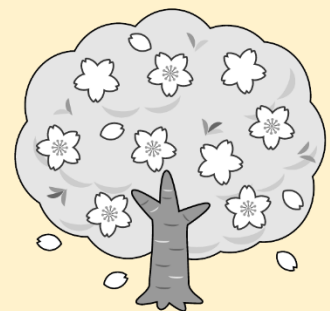
**集合・出発** 福祉センター 10:00出発

**持ち物** 飲み物、お弁当、敷物

\*出発後、マルフジに寄ります。

\*手作りでもオッケーです。

\*多摩川中央公園に模擬店も出店します。



申込みは、各団体まとめて28日(土)までをお願いします。

当日雨天の場合は、朝8時にLINEでお知らせいたします。

当日欠席や集合に遅れる場合は、LINEでご連絡ください。

当日参加、途中から参加も OKです。

❀春のひとときを楽しみましょう❀